

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	淀総合運動場独身寮	階数	地上3F
建設地	京都府久世郡久御山町島田堤外33	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	39 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集会所・集合住宅	評価の段階	
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2020年10月5日
敷地面積	7,713 m ²	作成者	NTT-F 崎前裕介
建築面積	1,524 m ²	確認日	2020年10月5日
延床面積	3,527 m ²	確認者	NTT-F 松本功一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.7**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 2.9**

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 3.9**

Q3 室外環境(敷地内) **Q3のスコア = 4.5**

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.1**

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 2.7**

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 3.5**

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.4**

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>「独身寮まるごとクラブハウス」がコンセプトである計画建物は活動的なオンの空間、休息・居住のオフの空間がパッケージされた空間を目指す。パッケージのなかで選手同士がオン・オフの切り替えができ、それぞれの空間で日常的に考えや各々の行動を共有することでチームワークの向上を促す。【寮生同士】・【自然】・【周辺】の3つの建築的コンセプトによって「独身寮まるごとクラブハウス」に近づく計画としている。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>オフの空間を阻害しないよう遮音性の期待できる鉄筋コンクリート造で計画する。建築的コンセプトの【自然】に基づき、中庭(植栽)を設けることで積極的な自然採光・自然換気・自然排煙を可能としている。また人は内部環</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1における外部環境に近づくための取り組みとしてパース、模型による内装計画を行い、施工段階ではモックアップを用いた検証を行う。ラウンジは木材を中心とした空間としオフの空間を強化する。照明計画も内装計画と同時に</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地内は必要以上の舗装はせず、緑化を推進している。防犯対策のため緑量によって視線を遮らないよう配慮している。凹凸のある建物形状から軒下が多くできるため日射抑制を行う。軒下空間やテラスなど室内外をつなぐ</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>屋上には太陽光パネルを設置し、自然エネルギーによる発電を行う。中庭の換気は環境シミュレーションを行い、空気の流れを検証した。中間期、建物内の通風があることを確認し、寮生の積極的な手動換気を促し、空調負荷を抑える取組とする。建物全体での電気使用量のほ</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>建物内の2階部分や3階部分の外部テラスには一般社団法人京都府木材組合連合会が認める京都府産木材である材料にてウッドテラスを計画し、地球温暖化対策に寄与する計画とした。スポーツ選手の練習後や、オフの朝夕など、用途上、常にお湯を張ることとなる1F浴室の浴槽の給水は濾</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建築的コンセプトの【周辺】に基づき、周辺環境になじむ計画としている。敷地周辺は第一種住居地域で比較的小さなボリュームとなっている。計画建物のボリュームが「圧迫感を与えないよう、ボリュームを分節し、凹凸を与えることで、周辺の住宅と同じ程度のボリュームにす</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される